

# 71 西方が岳・蝶螺が岳

さいほう が たけ ささえが たけ

764m・686m

福井県

清水一彦

敦賀湾を挟んだ西側の敦賀半島を南北に背稜をなすのが、西方が岳・蝶螺が岳であるが、山容全体は湾東側の越前海岸から眺めることが出来る。展望スポットとしてお薦めは、北陸自動車道の杉津PAで、同所には、芭蕉の句碑「ふるき名の角鹿や恋し秋の月」、や何故か、桂由美「恋人の聖地」と記した立派な石碑があり、



「恋人の聖地」と記した立派な石碑があり、往時を偲ぶとロマンの多い場所で、敦賀湾を介して見ると半島の頂点をなすこの2座は一段と迫力がある。山名の由来は「西方浄土」からとする説が多いが、現在では極楽浄土の地域に国内最多の原子力発電所が存在しており、素直には受け入れ難い面もある。また「蝶螺が岳」はこの山が全て花崗岩で構成され、露岩の凹凸がサザエの角の形に似た事からとされるが、同名の山は他に見当たらない。

登山口は常宮神社の脇からとなるが、この神社の祭神に神功皇后が祀られ神話では、応神天皇を安産したことから「お産のじょうぐうさん」と呼ばれ親しまれている。

また、所蔵の国宝「新羅鐘」は朝鮮歴、大和7年の作で千三百余年を経ており、豊臣秀吉が持ち帰り、若狭藩主大谷吉継により奉納されたもの。(拝観料：200円)

神社脇の集落に入ると西方が岳登山口の標識がある。山道に入り約25分で奥の院、展望台を兼ねる大きな岩の上から敦賀湾を見下ろす。さらに左にトラバース気味に進むと、およそ40分で銀命水と云う水場に着くが、決して滾々と湧き出るといった感じではない。ここが山頂までの中間点で、急坂となり、25分でオーム岩、道はやや緩やかとなり、ブナの混在する気持ちの良い林を40分程進むと西方ヶ岳山頂に着く。山頂には避難小屋があり、その左手奥の灌木の中に二等三角点がある。右側(海側)に廻ると展望岩があり、越前海岸、若狭の山々、遠く白山などが一望出来る。山頂広場を辞し小屋の後ろから北に下り小さなアップダウンを繰り返して30分程でカモシカ台への分岐に着く。分岐から往復15分程度であるが、このカモシカ台の大岩からの眺めは、まさに360度で、若狭、嶺南、嶺北、その向こうの山々が遠望でき素晴らしい眺めである。一方、美浜・敦賀の原発も

眼下にする事で、昨今、違和感を感じるのは筆者だけか？

分岐に戻り、小さなアップダウンを30分で蝶螺が岳の山頂に達する。三等三角点の山頂は花崗岩がゴロゴロと点在し近くの岩場からは、明神崎の先端に連なる白い輝きを見せる水島の絶景が眼に飛び込んで来る。

山頂からは巨岩の立ち並ぶ尾根道を下り10分で一枚岩の展望を経て、30分で長命水の水場に着く。湧き水の名水ではなく沢水が流れこんだもので、飲料には少々抵抗を感じず。ここからは急な下り坂をひたすら下り、農道に出て1時間で登山口の標識がある浦底集落に着く。県道に出たら右へ500m程で浦底のバス停に着く。

敦賀は神話期から、角鹿と呼ばれ遠く朝鮮半島との交流があり、倭国（日本）草創期の三世紀後半から四世紀にかけての歴史的考察には興味深いものがある。これらと、仲哀・神功・応神天皇に纏わる、気比神社・常宮神社の由緒などに思い巡らしながら山旅をするのも、楽しみが増すのではないだろうか。

コースタイム：常宮神社（2時間10分）西方が岳（1時間20分）蝶螺が岳（1時間40分）浦底

二万五千図：杉津

交通機関：敦賀市コミュニティバス常宮線（1日3往復）

代行運行：福井鉄道(株)自動車部 0770-22-1317

問合せ先：敦賀観光協会 0770-22-8167

敦賀観光案内所 0770-21-8686

温泉：敦賀きらめき温泉「リラ・ポート」 0770-24-1126

〒914-0022：敦賀市高野91-9-3

